



東京工芸大学・風工学研究拠点・研究集会（2018年3月2日）のご案内

実街区における住宅の通風性能評価に関する研究集会

近年、自然のエネルギーを上手く取り入れながら暮らしていくことで省エネ性と快適性を同時に実現できる可能性を持っている建築的工夫としてパッシブデザインに注目が集まっている。夏期・中間期においてパッシブデザインによる自然通風の有効利用によって、冷房負荷の削減や室内の快適性向上し、住宅の二酸化炭素排出量削減に貢献することが期待される。その一方で、都市部においては高密度化により壁対面での通風量を確保することが難しくなっている。この解決策としてウインドキャッチャーや天窓、換気塔といった設計手法が挙げられる。このように様々な手法を用いて都市部における通風量の確保を試みている例があるが、効果的に利用を行うには実街区の通風のポテンシャルを把握することが必要である。従来建蔽率等を変化させた均等整列配置のモデルを用いた風洞実験によって、通風性能評価が行われてきた。しかし、通風性能は細かい建物配置や道路条件などにより変化することから、周辺条件の影響については検討の余地がある。そこで本研究集会では建蔽率及び街区形状の違いが通風性能に及ぼす影響を把握するとともに、今後取り組むべき課題を確認することを目的として、研究集会を開催することといたしました。今後、様々な研究についての最新の研究成果についても情報を共有し、様々な視点から通風のさらなる有効利用について検討を進めたいと考えます。一連のテーマに関心をお持ちの皆様にご参加いただきたく、ご案内申し上げる次第です。

と き： 2018年3月2日（土）13:30~15:00

ところ： 東京理科大学 森戸記念館

東京都新宿区神楽坂 4-2-2

東京メトロ東西線／有楽町線／南北線／都営地下鉄大江戸線・飯田橋駅

B3 出口から徒歩 5 分

JR 線・飯田橋駅 西口改札から徒歩 6 分

<http://www.tus.ac.jp/info/access/kagcamp.html>

問合先： 東京工芸大学 工学部建築学科 教授 水谷 国男

電話：046-242-9923 E-mail：mizutani@arch.t-kougei.ac.jp

<同日の 15:15~16:45 には、関連して「ウインドキャッチャーの有効利用を目的とした建物近傍の通風ポテンシャル評価に関する研究」を開催致します。こちらへのご参加も、是非お願い致します。>

東京工芸大学風工学研究拠点 研究集会

実街区における住宅の通風性能評価に関する研究 プログラム

13:30-13:35

開会挨拶, 趣旨説明

倉淵 隆 (東京理科大学 教授)

13:35-13:50

実街区に建つ住宅に関する実験的な通風性能評価及び CFD の再現性に関する研究

本間 陽樹 (東京理科大学)

13:50-14:05

河川近くに計画された市庁舎における通風環境の数値予測に関する研究

清輔 隼仁 (東京理科大学)

14:05-14:10

休憩

14:10-14:25

パッシブタウン黒部モデル第1・2期住宅の CFD による通風性能予測に関する研究

櫻井 園子 (東京理科大学)

14:25-14:40

パッシブタウン黒部モデル第2期住宅における最適な窓開放条件に関する研究

御園生 美久 (東京理科大学)

14:40-15:00

討論及びまとめ
